

準学力検査を実施する。

ウ 実施時期

①平成15年度学習指導改善調査

平成16年2月実施を予定しているが、変更もあり得る。

②平成15年度全国標準学力検査

第6学年約1,000人抽出児童を対象にNRT(全国標準診断的学力検査)を平成15年4月～5月に実施した。

結果は、以下のとおり。

国語(第6学年)県平均偏差値	53.3
算数(第6学年)県平均偏差値	53.2

(5) 刊行物の発行及び助成

ア 指定研究会の「研究紀要」の刊行

イ 機関紙「研究集録 No.40」の刊行

ウ 学習指導改善調査研究事業「報告書」の刊行

エ 各都市小教研の「研究紀要」等の刊行助成

(6) 各種会議の開催

ア 評議員会：年2回(6月, 2月)

イ 理事会：年11回(10月を除き毎月1回)

ウ 全県地区部長会：年1回(5月)

エ 研究部会：必要に応じて随時

オ 研究集録編集委員会：年6回

カ 学習指導改善調査研究事業

・本部委員会：年2回(5月, 3月)

・研究推進委員会：年8回

キ 県費補助事業関係事務説明会：年1回

コ ラ ム

「中1ギャップ」に思う

柏崎市立柏崎小学校長 猪爪 行雄

県教育委員会では、中学1年生でのいじめの発生件数や不登校生徒数が急増する現象、いわゆる「中1ギャップ」の解消に向け、県内のモデル中学校5校を指定した検討会議を開催するなど、その発生要因を検討してきています。

ところで、中学1年は、教科担任制、学習内容の増加など、小学校とは学習環境が大きく変化します。また、複数の小学校から児童が入学し、同級生や上級生との人間関係につまずくこともあると思います。

そこで、私たちは、この課題を真摯に受け止め、中学校で問題が発生する場合には、その芽は小学校にもあるのではないかと考え、みんなでこの課題解決に向けて努力する必要があると考えます。具体的には、次の点での取組が大切かと思われま

1 小学校と中学校との連携の強化

- ・小・中学校間での授業公開や小・中教員のTTによる授業交流の実践
- ・小学校高学年に一部教科担任制の導入や中学校教員による出前授業の実施
- ・6年生児童の中学校への体験入学、学校行事見学、部活動への参加交流

2 望ましい人間関係づくりの取組

- ・人間関係づくりのスキルトレーニングやカウンセリング研修の充実
- ・複数小学校間での児童交流活動の充実 等々

小学校を卒業した子どもの健やかな成長を願って、中学校との情報交換を密にしていきたい。